

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価 (4月10日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①柔軟な学びのシステムを活かした教育課程の編成を推進する。 ②生徒が主体的に学び、学力の定着が図れるような授業を実現するための研究を推進する。	① Semester制導入に向けた諸課題の整備と調整を行う。 ② 生徒の主体的な学習を促す授業の研究を行う。	① 学校選択科目を見直し、教育課程の精選を図る。 ② 「清南型アクティブラーニング」を確立するための授業研究を行い、その結果を共有する。	① 本校の特徴である、生徒の自己実現や進路選択ができる教育課程になっているか。 ② 各教科で、「清南型アクティブラーニング」とはどのような授業なのか研究できたか。	① 学校設定科目の見直しなど、カリキュラムの精選を行った。 ② 日曜スクーリングを見学しあい、よりよい方法について研究した。	① 履修モデルをうまく提示できるとよい。 ② ICT機材に対する習熟度が各人違うので、全員が同じ機材を使用することはできなかった。改善方策としては、機材の取り扱いに慣れることが必要である。	① 単位制フレキシブルスクールの仕組みが中学生や保護者にはわかりづらい、資料や説明を工夫してほしい。 ② アクティブラーニングは、生徒が主体的に活動する形態の授業で、中高で取り込まれるようになった。清南型アクティブラーニングには興味がある。教員対象の授業アンケートを実施するとよい。	① 柔軟な学びのシステムとして、個別学習支援の制度を導入した。 ・年間を通して学習相談日が活用されており、特に後期は毎週登校して質問するようになった生徒もいた。 ② ICT機器の利活用で、見てわかる授業を心がけたことにより、学力の定着に成果があった。 ・日曜のスクーリング時にレポート完成講座を行った。	① 完成講座・学習相談の周知を徹底し、活用しやすい形に改善する。 ② 通信制教育の柱となるレポートを通じて、生徒の取組の実態把握や困り感への改善策を考えている。今後もレポート指導についての研究を進め、改善策を検討する。
2 生徒指導・支援	① 多様な課題を抱える生徒に対応するため指導、支援体制の充実を図る。 ② 学校行事を通して生徒の自己肯定感の向上を図る。	① SC、SSWの積極的活用と連携を図る。 マナーアップを推進する。 ② 文化祭、スポーツ大会等を生徒主体に実施する。	① チューター制度や、相談ポストの存在を周知し、担任も含めた一次的な支援の中から必要なものをSC、SSWにつなげていく。 ・ポスター等を使い、啓発活動を継続していく。状況に応じた柔軟な巡回指導を行う。 ② 委員会生徒と教員の相談協議の機会を多く設ける。	① 利用状況と教員へのフィードバックおよび、必要に応じてケース会議が設定できたか。 ・生徒指導案件の内容状況。 ② 自己の役割について振り返りを行い高評価が得られたか。	① チューター対象職員の顔写真を掲示し、チューターの申込用紙を置いて、制度の周知を行った。 ・ケース会議を開き、SC、SSWにつなぐことができた。 ② 遠足は生徒主体の活動ができた。	① チューター制を活用はしているが、正式に申し込んでいない生徒が少なからずいる。登校できない生徒に対する対応と合わせて手続きに課題がある。改善方法としては、家庭訪問による相談体制の整備が考えられるが、個別の事情もあり実現には困難が伴う。 ② 一人でも多くの生徒に達成感や充実感をもたせてやってほしい。	① 多様な学習支援について、充実した内容となっているので、このような研究と実践を推進しているというのは心強い。今後もさらに充実したものにしてほしい。 ・チューター制度は、相談する内容によって先生を選べるのがよい。 ② 一人でも多くの生徒に参加させることで、達成感や充実感をもたせてやってほしい。	① 担任やチューター以外の教員にも相談する生徒は多数おり、教員の声かけによる一定の効果があつたものと思われる。 ・SC、SSWとの連携により一定の成果が得られたが、生徒・保護者へのはたらきかけには課題がある。 ② 学校行事に参加する生徒の中には、主体的に活動する姿も見られた。	① チューター制度の活用やSC、SSW及び専門医との連携を充実させ、支援体制を強化する。ケース会議を必要に応じて開き、支援のための具体的な方策を教員間で共有する。 ② 学校行事に一人でも多くの生徒が参加するよう便りなどを活用し、はたらきかける。

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価(4月10日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①生徒一人ひとりが将来性、計画性を踏まえて自己実現ができる進路指導の充実を図る。	①キャリアサポート体制を拡充する。 ・「いきる力」をはぐくむ。	①個別の進路計画および、進路相談やチューターの活用を図る。 ・外部の教育力および総合的な学習の時間を活用する。	①個別の進路計画の作成状況。進路相談件数やチューターの活用状況。 ・進路達成状況。	①キャリア指導Gと連携し、生徒の進路相談に対応した。 ・学級通信等を活用し、進路指導の充実を図った。	①多様な課題を抱えた生徒個々に対応するための時間的余裕、人的配置の整備が不十分である。 ・上記の点の改善の上に、担任のより懇切丁寧な進路指導が望まれる。	①卒業後の進路については関心があり、入試の方法について情報がほしい。 ・生徒の進路については多種多様であり、未定やアルバイトで卒業した生徒のその後の進路先を知りたい。	①サポートティーチャーの導入により進路指導支援体制の充実・活用を実現できた。 ・担任以外の教員(チューターなど)により手厚い支援活動を実施することができた。	①一人ひとりのニーズと状況を踏まえ、サポートティーチャーや外部機関とも連携した支援体制を継続する。
4	地域等との協働	①地域に理解され、信頼される活動を推進する。	①地域の防災活動や地域の学校(小学校や幼稚園など)と積極的に連携に取り組む。 ・日々の教育活動のより丁寧な情報発信を行う。	①学校行事としてだけでなく、学年単位等、機会をとらえて定期的に実施する。 ・ねらいや意図に加え、生徒の様子を丁寧に説明する。 ・生徒の多様なニーズ対応に向け地域連携を広める。	①活動件数を増やし、内容充実できたか。 ・学校説明会等において、本校の情報を得る媒体として、本校ホームページを挙げる人の割合が前年度よりアップしたか。 ・生徒の地域との連携はできたか。	①定通合同説明会におけるアンケートでは、県・高校のHPから知ったという設問について、昨年度が151名来校中60名(35%)だったが、本年度は205名来校中53名(25%)となった。	①ホームページに画像を入れ込むなど内容の工夫や更新回数は増やしており、説明会への来校者数は増えたものの、ホームページによる結果につながっていないので、さらなる改善が必要である。	①小学校の行事に清南生が参加してくれてよかった。今後は小中高の連携を部活動等を通じて連携できたらよい。 ・離れた地域の中学生や保護者には、厚木清南の情報が入ってこないもので、ホームページを含めた詳しい情報発信が望まれる。	①人数は少なかったが、地域の小学校のイベントに参加した生徒もいた。 ・中学生や保護者からもわかりやすいホームページにするよう検討を加えていく。	①地域と連携して防災活動を実施することは喫緊の課題だが、それだけでなく、生徒が関わっていきける機会をなるべく設定する。 ・本校について、より深く理解してもらえるホームページとなるよう工夫する。
5	学校管理 学校運営	①安全・安心な学校づくりのために三課程が連携して教育活動を展開する。 ②フレキシブルスクールとして三課程の情報共有を推進する。	①三課程防災訓練を定着させる。また学校安全・安心活動計画を作成する。 ②ポータルサイト活用を進める。	①実施目標を定め、三課程で実施要項を作成する。 ②学校説明会等の実施状況をまとめ、ポータルサイトでの周知を図る。	①実施状況。 ②三課程の活用状況が改善したか。	①今年度は「教員不在避難訓練に相当する訓練(生徒主体の避難)を目的として行った。教員が引率することなく生徒がどのように避難するかを検証した。 ②朝の打合せではほぼ毎日ポータルサイトを使用している。	①放送から8分で全員が集合完了し、避難はスムーズだったが、通信の参加者は48名で、もう少し生徒数の多い時間帯の訓練が望ましい。実施予告の有無について検討も必要である。 ②昨年よりは他課程の動きが解るようになった。	①三課程の防災訓練が、具体的にどのような行われているのか、課題はないか教えてほしい。 ②学校案内のパンフレットは、具体的な長所・短所を盛り込んで、三課程をまとめたものだとわかりやすい。	①防災訓練では、フレキシブルスクール特有の課題があり、今年度は生徒がどう行動すべきかを考えるよう取り組んだ。 ②見やすさやわかりやすさを重視して学校案内を作成しているが、改善に向けて検討したい。	①三課程で連携した防災訓練については、様々な状況を想定しながら継続して実施する。 ②中学生や保護者に、よりわかりやすくするための工夫をする。